

1 産地の概要

<対象地域> 伊賀市

<産地の現状・課題>

- アンケート結果※によると、市内の52の集落で、ニホンザルによる被害が問題となっていた。
※集落代表者へのアンケート調査(H25)において、被害が「大きい」以上の回答をした集落数(有効回答数126)
- 平成25年当時、11のサル群が確認されており、組織的な追い払いや、侵入防止柵の整備などの対策を推進し、被害軽減を図ってきた。
- しかしながら、頭数の多い群れや、複数の群れに囲まれて行き場のない群れ、地理的条件から追い払いが難しい集落などでは、十分な効果が得られなかった。
- このため、個体数や群れの減少を図る必要があったが、銃器や従来の罠などの捕獲技術では一度に捕獲できる頭数が数頭程度であり、新たな捕獲技術の開発が必要であった。

2 検討体制

<構成員と役割>

- 地域住民、狩猟者(捕獲、大型檻管理等)
- 伊賀市役所(地域住民、狩猟者との調整等)
- (一社)獣害対策先進技術管理組合(被害軽減体制の維持、啓発、研修事業等)
- (株)アイエスイー(遠隔監視操作システムの開発・運用)
- 鳥羽商船高等専門学校(遠隔監視操作システムの開発)
- 兵庫県立大学(遠隔監視操作システムの開発、群れ管理計画策定支援、捕獲技術体系確立と実証)
- 三重県(農業研究所、普及センター、獣害対策課)
(遠隔監視操作システムの開発、捕獲技術体系確立と実証、群れの行動把握、群れ管理計画策定支援)



遠隔監視操作システムの概要

3 新たなサル対策への転換

<目指すサル対策>

サル群れの行動を把握し、遊動域や加害レベルに応じた群れごとの管理計画を策定し、追い払いや柵設置などの被害対策と、ICTを用いた遠隔監視操作システムを活用した大型捕獲檻による群れの個体数調整に取り組むことで、継続的な被害軽減をめざす。

	H22	H23	H24	H25
従来のサル対策	組織的な追い払い・侵入防止柵の整備			
	銃器や罠による捕獲			



同時出没する複数個体をまとめて捕獲することが可能な「遠隔監視操作システム」を開発し、捕獲頭数が不足している群れの個体数調整に向け、当システムと大型捕獲檻を導入

	H26～
新たなサル対策	組織的な追い払い・侵入防止策の整備
	遊動域や加害レベルに応じた群れ毎の管理計画の策定
	ICT捕獲技術を活用した群の個体数調整

<新たなサル対策の効果(検証結果)>

被害金額(伊賀市報告)：1,009千円(H25)→0千円(H28～R元)

被害が「大きい」以上の回答をした集落数：

52集落(H25 有効回答数126)→10集落(R2 有効回答数69)